

「西和賀の人と自然と環境を守り育てる豊かな里づくり」

えこみゆう

西和賀広域エコミュージアムだより

平成十七年三月二十五日発行 第三号

地域資源の地図を作成

西和賀広域エコミュージアム推進協議会では、西和賀に昔から残っている自然や歴史・文化などの資源（遺産）を見つめ直し、保存や伝承をしながら、これからの地域づくりに役立てて行くことを考えています。これからも地元学などを行いながら、地域の中で保存したい、伝えていきたい場所などを、記録しながら増やしていきたいと思っていますが、まず第一段階として、皆さんに知られている自然や文化的な場所などを分類しながら地図にしました。（左記）

- ・自然系 山岳・森林・滝川沼・群生地等
- ・歴史・文化系 施設・史跡・無形文化等
- ・体験系 自然・農林業・工芸・食生活等



ホームページの公開を予定しています
<http://www.nishiwaga-eco.com>

エコミュージアム研修会

一月十七日(月)に沢内村役場で縄文文化とのつながりを研究されている、名久井文明先生(物質文化研究所一芦舎代表)をお迎えしてお話をいただきました(以下に講話内容を記載します)

日本の文化の基礎となる縄文文化との深いつながりを探ってきました。雑穀の栽培や作業用具、木の皮の文化(用具)、木の実は食材、伝統技術「ざる」や「かご」の自然の素材などを調べました。各地の古老を訪ねて気づくのは、自然と上手につきあい、さまざまな努力や工夫を凝らしながらひたむきに生きてきた先人達の生活文化の知恵です。文化を伝えている人はただの年寄りで

はありません。私にはまさに「むかし技の匠」として人間国宝のように思えます。しかしそんな折角の貴重な技術を受け継いできた人々も、現代社会ではその技を發揮する場がなくなってしまう。新しいこと、早いこと、便利なこと、

金になることを良しとする現代社会の中で、「伝統的文化」は急速に消滅してしまいます。「むかし技の匠」が尊敬され、尊厳をもって技を伝授できるよう、そんな社会であつたら素晴らしいと思うのです。さまざまな用具を作った伝統的な知識や技を見直すことは、経済効率優先のひずみに満ちた現代社会の中で、何かしらの示唆を与えるのではないかと思われ

てならないのです。(以下に三つ提言します)

1「むかし体験の家」をつくる
学校に通う児童、生徒たちを対象に、茅葺きの伝統的な家屋を用意します。昔の生活用具や農具をなるべく昔のままに配置して、見たり、持って使ってみて、聞こえる音、匂い、手触り、重さや軽さ、道具の扱いやすさや扱いにくさなどを感じ取ります。きっと子ども達は様々なことを発見するに違いないと思うのです。

2「作り部」を育てる
成人を対象とするもので、「むかし技」をもっている古者と、昔の技術を受け継ぎたい若者とをつなぐ活動です。地域の「むかし技の匠」を師匠とし、楽しみながら伝統的技術文化を教わり、さらに次の世代に受け継ぐこととするものです。

3「クラフト塾」をつくる
「作り部」として親方(師匠)から合格点をもらった人を対象とし、伝統的工芸技術を基礎として創作するなどの応用編です。工芸作家から指導してもらい、腕を磨いた参加者は作品を作り、展示や販売もできます。

そのようにして地域の「むかし技の匠」の指導に導かれながら伝統的文化を体験することで、楽しさや喜びとともに、作り部たちの手によって技が若い世代に受け継がれていけば、素晴らしいと思うのです。

雪中体験・観察会の開催

一月十三日(日)に観察会を行いました。共催は、カタクリの会、雪国文化研究所。



志賀来山にカンジキを履いて登りました。沢内村がすっぽりと雪に包まれた冬の景色も素晴らしいです

西和賀広域エコミュージアムの活動のご理解と支援をいただきたいと思います。

連絡先 左草一地割二三〇番地十一
(左草小学校) 八二 一八五〇

湯田町 八二 三三八五 観光課
沢内村 八五 二二一一 総務課

川舟地区地元学

日時 平成十六年十月二八日

中村地区 案内人 柿沢辰男さん

高橋信男さんの昔の馬舎や一里塚、記念公園、中村定一さんの観音様などを案内していただきました。山の頂には、旧陸軍飛行機観測所があったそうです。



世音神社の杉の巨木は、樹高20m、直径1.36m

下村地区 案内人 高橋金四郎さん

川舟の家(石井家)、まぎ野で馬で刈った草や力やなど運ぶ時に川を越え渡った場所(馬越渡)や菅林署の丸太出しのトロッコや昔の貯木場跡地などを案内していただきました。貯木場は、戦中に朝鮮人が来て池を掘って、木材などを伐採して防虫、防菌処理をして貯めていましたが、薬剤処理をするようになってから池が使われなくなりました。

持田北地区 案内人 高橋勝一さん

川舟小学校、山神社、稲荷神社、川舟断層、川舟用水路、夢工房、川舟沢などを案内していただきました。山神社は、日本古来よりの神と言われる大山津見の神で自然すべてを司る。隣に豊作祈願の稲荷神社、馬頭観音様、更に水神様があり、全てが信仰の対象となる神様が揃っているそうです。また、川舟沢の水は飲めるほど綺麗な水で、イワナが沢山いる

そうです。この川の上流に滝があったところに舟のような岩があることから、この地名(川舟)の由来になったそうです。

持田南地区 案内人 野中淳一さん

交通安全塔、地藏様、庚申様、河童がでる所、水の神様などを案内していただきました。地藏様は、安産の神様で産前産後お祈りをしたそうです。庚申様は、道案内(交通安全の神様)及び悪い者が入ってこないようにまよけの神様でもある。また、河童にひっぱられた馬の足跡が残る岩では、子供の時によく泳いだ所だそうです。水の神様(オシズメの神様)は、水不足の時に、突然水が湧いたところに置かれました。もう、枯れてしまったらしいです。

料理班

みよがの酢漬け、かぼちゃの煮つけワラビのしょうが醤油、みずのコブ、みずの煮付け、おにぎり、大根の酢漬け、ゴボウのきんぴら、とん汁、くるみ・こまごはん、など郷土料理をたくさんご馳走になりました。

若畑地区地元学

日時 平成十六年十月二二日

八ツ又地区 案内人 吉田清一さん

合戦場山、無縁仏、太平山三吉神社、さいの神などを案内していただきました。木しゃくしを作っている吉田清一さんは、作り始めて十五年ぐらいになり、注文に追いつかないくらい忙しいらしいですが、いつまでできるか楽しみながらやっているそうです。水路にはサンショウウオや大岩魚がいたそうです。岩魚の大きさは約四五センチメートル? 場所は秘密です。



山三吉神社は明治20年頃の創建といわれています。鉄製ワラジが奉納されています

若畑地区 案内人 藤原長一さん

お墓(願勝寺鐘つき堂跡)、願勝寺跡、山祇神社などを案内していただきました。途中、七十年以上はたったグミの木がありました。今となれば酸っぱくてたいては美味しくも無い実だが、子供時代は誰でも食べたそうです。長一さんは、昔は枝豆やとうもろこしを盗んでいって食べて叱られたものだが、今の子供は袋菓子しかたべないといっていました。

下大荒沢地区

案内人 藤原雅文さん

稲荷大社、駒形神社などを案内していただきました。川舟断層は一八九六年八月三十一日陸羽大地震(真昼岳付近を震源)上下変位最大2m、水平短縮変位位置1~3m、横ずれ変位量無し(の東北地方に特有な逆断層型の地震断層でした。この地域は、小荒沢川と横川にはさまれた所で水が氾濫して、大変なところであることから、嫁にいくなら大荒沢には行くなといわれていた。高齢者創作館ではワラの手袋「つけしえ」があつて終戦当時頃まで使っていたそうです。不器用な事を「つけ」と呼んでいたことから

上大荒沢地区

案内人 児玉幹夫さん

山の神社、一里塚、金毘羅神社、長根山スキー場跡、銀河高原の源泉などを案内していただきました。佐々木美代子さんの庭は、良く手入れされていました。玄關まで花で飾られていて、風除室がまるで花の温室のようです。また、工房ちやいむは、農産加工して、ばっけ味噌・山菜さんまい(炊き込みご飯)・味餅・を販売しているそうです。藤原キイさんが、ママ(大豆)を打って皮からママを出していました。打っている棒をマツカダブリと呼んで、材質はクワの木で古くなつても折れないといっていました。



横道街道沿いにハセが掛けられていて、約130本、260mはあり、長さ日本一でしょうか?

大志田地区 案内人 吉田芳夫さん

昔の火の見やぐら、山菜加工場、営林署の出張所跡、大広目神社、庚申様、松本徳治さんの馬小屋(乗り鞍、馬のワラジ)、慰霊塔、銀鮭の養殖場、水神社などを案内していただいた。山菜加工場は今でも使っている。中には子供の遊び場もあつて昔は、福祉作業所だったそうです。